

新連載

「会話」が生まれる



考案・監修／井上由季子

グラフィックデザイナー。香川県三豊市で「モーネ工房」を主宰。コミュニケーションを大切にした創作活動やデザインで、人と人をつなぐ。新聞紙を材料にした「切り紙カレンダー」は病院や介護施設など全国に広がりを見せている。著書に『老いのくらしを変えるたのしい切り紙』（筑摩書房）など。

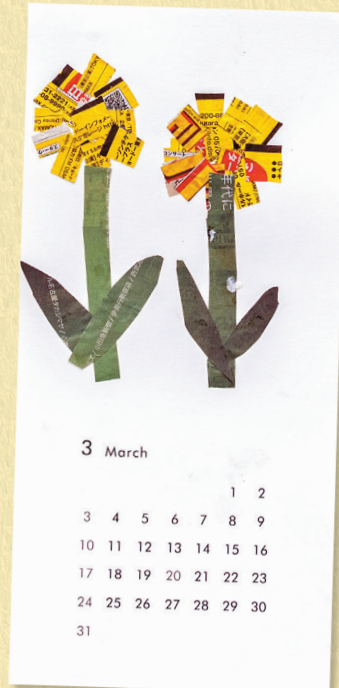
新聞切り紙カレンダー

新聞紙のカラーページから好きな色や模様を選んで、思い思いに形を切り出す「切り紙カレンダー」。制作過程から、利用者との「会話」が生まれます。この制作に初めて挑戦する施設の取り組みを、連載でご紹介します。

撮影協力／医療法人幸信会 介護老人保健施設あだたらデイケア

カレンダー台紙はレクリエのサイトからダウンロードできます。詳しくはp.122をご覧ください。
※台紙は、モーネ工房・井上由季子氏によるオリジナルデザインです。

3月 たんぽぽ



／ 私たちが作りました！ ／



4月 てんとう虫



新聞切り紙は、

作品を作るためではなく

その時間に生まれる楽しい「会話」のために

井上由季子さん

新聞切り紙をはじめたのは、母が介護施設に入所したことがきっかけでした。母との思い出を切り紙にしてはがきを送り、温かなコミュニケーションにつながりました。その後、母の入所で一人暮らしになり、時間を持て余すようになった父に切り紙を勧めると、初めは拒否。しかし、釣りが趣味だった父は、やがて魚の切り紙に目覚め、娘である私と切り紙を通じて対話をするようになりました。くる日もくる日も新聞紙から魚を切り抜く父の姿と生まれた切り紙は、「切り紙」の持つ力を私に教えてくれました。

新聞切り紙のカレンダー作りは今、全国の介護施設などに広がっています。作品を作るためではなく、その時間に生まれる楽しい「会話」のために。

新聞切り紙に「うまい下手」はありません。「切り絵」ではなく、「切り紙」と呼んでいるのはそのためです。みんなそれぞれ違う切り紙ができていいのです。そこに人それぞれの想いが詰まっているのですから。

手を動かす時間、切り紙を見て味わう時間、そして何より、そこから生まれる「会話」を楽しんでもらいたいと思います。

切り紙カレンダーのちょっとしたコツ

モチーフは誰もが知っている シンプルなものに

季節のもの、思い出話に花が咲きそうなもののなかから、作りやすいシンプルなものを選びます。

介護者の皆さんがまず 作ってみてください

切り紙を知るために、介護者自身ที่まず作ってみてください。新聞紙が色紙よりも豊かな材料になることに気づくためにも。会話をしながら切ったり、貼ったり。介護者が切り紙の楽しさを体験することで、利用者への声かけが増えると思います。

「うまく作る」ことは 求めません

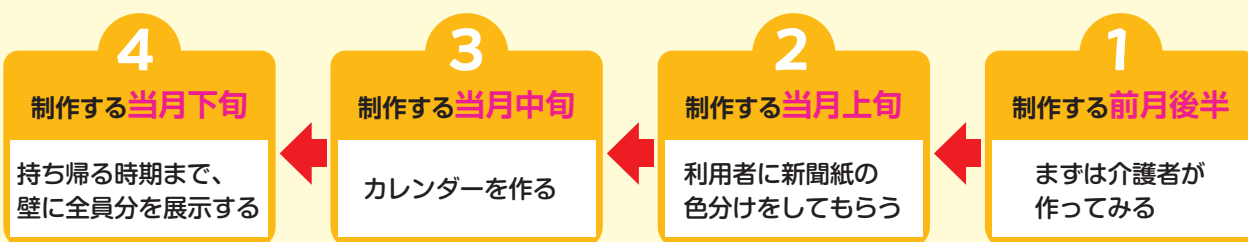
大切なのは「うまく作ってもらおう」としないこと。どんな仕上がりに、作った人の個性が表現されています。「みなさん、それぞれでいいんです」と何度も声かけしてください。

ほめようとしなくてください

利用者に声かけする際、それぞれに感じた言葉を伝えてください。切り紙を見て、きれいな色だと感じたら、「この色、すごくきれいですね」。あっと驚く部分を切り取っていたら、「ここを見つけたんですか！ おもしろいですね」。何かわからない時は、「これは何ですか？」と素直に聞いてみてください。そこから広がる、十人十色の会話を楽しんでもらいたいと思います。

カレンダーを作る手順の例

手順の一例を紹介します。これを参考に皆さんの施設に合った進め方を見つけてください。



介護者が切り紙カレンダーを作ってみました!

デイケアのレク担当の介護者6名が、まずは実際に切り紙をしました。作ってみたからこそ、切り紙の楽しさを知り、利用者が作る時のポイントなどに気づくことができました。



この辺り、
使えそう

モチーフを決めてから まずは新聞紙を色分け

事前に介護者でどんなモチーフがいいかを話し合いました。季節感はもちろん、利用者になじみのあるものや作りやすい形を重視して、「てんとう虫」に決定。新聞紙を持ち寄り、カラー面の色分けから取りかかりました。使えそうな部分をはがき程度のサイズに切り出し、黒、茶、赤、黄、緑、青などにざっくり分けます。



初めは、どう作ったら「てんとう虫」に見えるのか戸惑いもありましたが、試行錯誤するうちにイメージができていきました。

新聞紙がきれいな色紙に。好きなものを選んで使います。



羽は体と同じ形に
切って真ん中で切ると
簡単かも

でき上がり

てんとう虫の体や模様を 切り出して台紙に貼る

選んだ新聞紙の部分から、てんとう虫の体を切り出します。制作を進めるうちに、自分たちが初めに戸惑ったように、利用者もてんとう虫をイメージするのに時間がかかったり、どこから取りかかっていいのかわからなかったりするかもしれないと思い、介護者の作品を見本として見せることに。また、初めて取り組む制作であることから、基本の作り方をおおまかに決めて、利用者の作りやすさを大切にしました。



5・6月号では利用者の制作の様子をお届けします。

色味や貼り方などで作品に違いが出て、介護者同士でお互いの作品について会話が弾みました。